



LINE



Twitter

# 「動く総合商社」北前船と直江津のまち ①

## ●北前船とは

明治時代の終わり頃に直江津で撮影された写真(右)のように、かつて直江津の港にはこのような北前船と呼ばれる和船がたくさん入ってきていました。

諸説ありますが、北前船とは、江戸時代中期(18世紀)から明治30年代にかけて、大坂から北海道間を日本海回り(西回り航路)で航海していた商船群です。

最大の特徴は、ただ荷物を運んでだけでなく、商売をしながら航海をしていたこと。大坂から北海道まで一往復すると、千両(約1億円)の儲けがあったといえます。



写真提供: まちおこし直江津 佐藤和夫氏



佐渡汽船直江津港ターミナルに置かれている原寸復元された北前船の1/20の模型。

## ●北前船が運んだ「食文化」

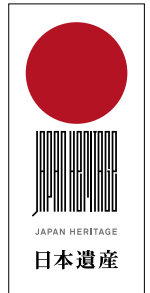
北前船は売れるものは何でも運んだことから「動く総合商社」とも呼ばれ、荷物以外にさまざまな文化も運びました。例えば食文化。北の海でしか採れない昆布を北前船が大量に運んだことで、昆布だしや昆布巻き、おぼろ昆布といった料理が各地に広まりました。

また、佐渡に伝わる「佐渡おけさ」の発祥は九州の「ハイヤ節」といわれていますが、これも船乗りが覚えて踊り伝えたからです。上越市でも、北前船の船乗りが伝えた「<sup>べいだいしゅう</sup>米大舟」「<sup>ふなかたがし</sup>直江津舟方節」といった踊りが今も踊られています。



## ●当時、直江津の港は…?

ところで、直江津港は昭和になってから現在の形になりました。では、北前船が活躍した時代の港はどこにあったのでしょうか? 実は意外な場所でした。それは…、次回をお楽しみに!



## 広報対話課から

(☎025-526-5111)

●「広報上越7月号」は、6月23日(☎)・24日(☎)に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

## 上越市の人口・世帯数

令和4.5.1現在。( )は前月との比較

男 91,207人 (+30人) 女 94,620人 (-95人)

合計 185,827人 (-65人)

<人口増減内訳>  
出生 61 転入 768  
死亡 201 転出 693

世帯数 76,946 (+272)  
数字は住民基本台帳に基づくもの

## 表紙のことは:スポーツって、最高!!

スポーツを特集するに当たり、さまざまなスポーツ団体へ取材に伺いました(時には突撃で)。印象に残ったのは、皆さんの「笑顔」。コロナ禍で大会が中止になったり、思うように練習できなかった期間もあったからか、スポーツを楽しむ姿がとても印象的でした。今だからこそ、「スポーツの楽しさ」を体いっぱい、味わいたいですね。

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。